

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 63296564 A

(43) Date of publication of application: 02 . 12 . 88

(51) Int. Cl

H04N 1/41

H03M 7/30

(21) Application number: 62132502

(71) Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22) Date of filing: 28 . 05 . 87

(72) Inventor: HASEBE TAKUMI
AOKI NORIO

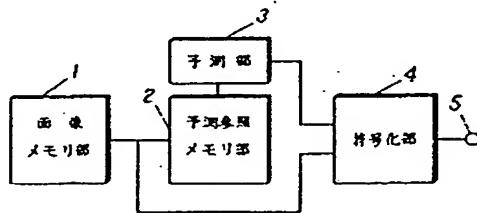
(54) BIT PLANE PREDICTING CODING METHOD

(57) Abstract:

PURPOSE: To attain reversible and efficient compression coding by using the correlation of a picture element in a bit plane and the correlation between bit planes.

CONSTITUTION: An original picture data is stored in a picture memory 1 and a coded bit plane data, that is, a higher-order bit plane data than the bit plane desired to be coded, and the coded data in the corresponding bit plane are used as the prediction reference data and stored in the prediction reference memory 2. The data is referenced and the prediction section 3 forms a predictive data. The predictive data is used as the reference data in the coding section 4 and the corresponding bit plane data from the picture memory 1 is coded. Thus, the reversible highly efficient compression coding is realized without losing the optional gradation bit setting at recording and hierarchy reproduction at reproduction being advantages of the bit plane coding method.

COPYRIGHT: (C)1988,JPO&Japio



BEST AVAILABLE COPY

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭63-296564

⑫ Int.Cl.

H 04 N 1/41
H 03 M 7/30

識別記号

府内整理番号

B-8220-5C
6832-5J

⑬ 公開 昭和63年(1988)12月2日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 ピットプレーン予測符号化方法

⑮ 特願 昭62-132502

⑯ 出願 昭62(1987)5月28日

⑰ 発明者 長谷部巧 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑱ 発明者 青木則夫 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑲ 出願人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

⑳ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1. 発明の名称

ピットプレーン予測符号化方法

2. 特許請求の範囲

- (1) ロビット階調を有するデジタル画像データで、その画像データのピット毎にピットプレーンを構成し、最上位のピットプレーンから順次下位方向へピットプレーンを符号化していく場合において、少なくとも最上位のピットプレーンを第1の符号化手段で符号化し、それ以下のピットプレーンに対しては、それまで符号化した上位のピットプレーンの画像データとこのピットプレーンのすでに符号化した画像データを参照データとして、符号化しようとするこのピットプレーンを含む階調の量子化レベルの画像データを予測し、予測データを作り、その予測データと対応するこのピットプレーンのデータとを用いて第2の符号化手段を用い、このピットプレーンのデータを符号化する事を特徴とするピットプレーン予測符号化方法。
- (2) 第2の符号化手段が予測データと対応するピ

ットプレーンのデータとの差を表す誤差データをつくり、その誤差データを第3の符号化手段で符号化する事を特徴とする特許請求の範囲第1項記載のピットプレーン予測符号化方法。

(3) 第2の符号化手段が予測データを参照データとして、ピットプレーンのデータを第4の符号化手段で符号化する事を特徴とする特許請求の範囲第1項記載のピットプレーン予測符号化方法。

(4) 予測データがピットプレーンの1ラインに対応するデータである事を特徴とする特許請求の範囲第1項、第2項または第3項のいずれかに記載のピットプレーン予測符号化方法。

(5) 予測データがピットプレーンの2次元領域データである事を特徴とする特許請求の範囲第1項、第2項または第3項のいずれかに記載のピットプレーン予測符号化方法。

(6) 第1の符号化手段がランレンクス符号である事を特徴とする特許請求の範囲第1項記載のピットプレーン予測符号化方法。

(7) 第3の符号化手段がランレンクス符号である

本是明治天皇の御遺言を記録したものです。この御遺言は、明治天皇が死の直前に、内閣總理大臣としての責任を果たすために、内閣の運営や外交政策などを語ったもので、日本史において重要な歴史的文書とされています。

부록 1. 개별화된 소득과 재산세 부과 및 세금 부과방법
부록 2. 소득세 부과방법
부록 3. 재산세 부과방법
부록 4. 부동산 세금 부과방법
부록 5. 기타 세금 부과방법

(୨) ପାତ୍ରମାନ-କି ଅଧିକ

১৯৭২ ফেব্রুয়ারি - ১৪৫৮

ପ୍ରକାଶକ କରିବାର ଜୟନ୍ତୀ

(「スリーハーフ」)と(「スリーハーフ」)の間で、左側の「スリーハーフ」が右側の「スリーハーフ」を上回る位置にあります。この場合、左側の「スリーハーフ」は右側の「スリーハーフ」よりも高くなるべきです。

欧元的贬值幅度将取决于该国的经济状况。

לג. מילוי סימני (ב' - כ' , , ב')

한국의 철도는 1905년 5월 1일에 개통되었고, 1910년 12월 1일에는 경부선이 완공되었다.

ੴ ਸਤਿਗੁਰ ਪ੍ਰਸਾਦਿ ॥ ੫੪੨ ॥੮੮-੧੮੧-੧੮੨ ॥

本圖錄於一九〇九年，本館存卷五、二〇四頁。清光緒三十一年十二月三日，B1-B2。此圖錄於一九〇九年。

• ૧૯૮૨ • ૧૧ ફેબ્રુઆરી

2022-2023 學年第二學期

医療上の利用分野

第4回の解説を読む

七八一-八千國特許化方法。

“スの如きは、おまえの本領だ。おまえがおまえの本領をもつておらぬ

7-1-8 子彈彈頭化方法。

“二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百”

特開昭63-296564(3)

画像データを掩蔽に予測し、予測データを作り、その予測データと対応するビットプレーンのデータとを用いて第3の符号化手段を用い、このビットプレーンのデータを符号化していくのである。

作用

上記方法により、ビットプレーン単位で符号化を行なうが、ビットプレーン間の相図とビットプレーン内の画素の相図を有効に利用し、可逆性のある効率良い圧縮符号化方法を提供する事ができる。

実施例

以下、図面を用いて、本発明の一実施例について説明する。第1図、第2図にそれぞれ本発明の第1、第2の実施例のブロック図を示し、第3図に本符号化方法の概要を示し、第4図に本発明におけるビットプレーンデータの1次元データの予測の一例、第5図、第6図に符号化の一例を示し、第7図に2次元データの予測の例を示す。

第1図において、1は符号化する原画データを

C₁～C_nはそれに対応する符号化データである。
第4図において、Aは符号化しているビットプレーン内の符号化しようとするラインデータ、Bはすでに符号化された1ライン前のラインデータ、Cはすでに符号化されたビットプレーンのデータを用いて予測したデータ、Dは1ライン前のデータを参照し、Cのデータを修正したデータを示す。(a)は原画データを上位2ビットまで量子化している図を示したものであり、下方にその2ビットの2値データ列を示し、①は上位ビット目のデータ列を示し、②～⑩は1ビット目のライン変化点を示す。⑪は次の2ビット目のデータ列を示す。⑫は上位1ビットから予測したデータとその修正データの次の下位ビットでの量子化を示しており、下方⑬に修正された予測データの2ビット目の2値データ列を示す。第6図において、(1)は第4図での2ビット目の原画データ(第4図(a)から抜粋)、(2)はそれに対応する予測データ(第4図(b)から抜粋)を示し、(3)は予測データを参照データとして、その白／黒の変化点に着目して、その変化点からの変動量を示し、(4)はそれを符号化した例を示す。

格納する画像メモリ、2は符号化するビットプレーンに対応する予測データをつくるための参照データを格納する予測参照メモリ、3は予測参照メモリ2のデータを参照して予測データをつくる予測部、4は予測データを参照データとして対応するビットプレーンを符号化する符号化部、5は符号化データ出力端子である。

第2図において、11は符号化する原画データを格納する画像メモリ、12は符号化するビットプレーンに対応する予測データをつくるための参照データを格納する予測参照メモリは、13は予測参照メモリ12のデータを参照して予測データをつくる予測部、14は予測データと符号化するビットプレーンを比較する比較部、15は比較部14からのデータを符号化する符号化部、16は符号化データ出力端子である。

第3図において、nは画像データの階調ビット数であり、nのn乗の階調をもつとする。B₁～B_nは原画データのビットプレーンデータであり、P_{B1}～P_{Bn}は予測ビットプレーンのデータ、

一部のランを示す。第6図において、(1)は第4図での2ビット目の原画データ(第4図(a)から抜粋)、(2)はそれに対応する予測データ(第4図(b)から抜粋)を示し、(3)は予測データを参照データとして、その白／黒の変化点に着目して、その変化点からの変動量を示し、(4)はそれを符号化した例を示す。

第7図では、2次元的に画像データを表現したもので、(1)は原画データ、(2)は予測データ、(3)は原画データと予測データの差を示したものである。図において、Aは原画データの上位1ビット目の白／黒の境界線を示し、Bは原画データの2ビット目の白／黒の境界線を示し、Cは予測データの2ビット目の白／黒の境界線を示し、それらで分割される領域①～④はそれぞれの画像で①は“00”，②は“01”，③は“10”，④は“11”(ただし、“1ビット～2ビット”である)の量子化レベルを示す。Dは原画データ2ビット目と予測データの2ビットとの差、ここでは論的NORをとっている。

以下図を用いて説明する。第1図、第2図の本

特開昭63-296564 (4)

発明の第1、第2の実施例をブロック図から説明すると、第1図において、画像メモリ1に原画データを格納し、すでに符号化したビットプレーンのデータ、すなわち符号化しようとするこのビットプレーンより上位のビットプレーンデータと該当ビットプレートのすでに符号化したデータは予測の参照データとして、予測参照メモリ2に格納される。そのデータを参照して、予測部3では予測データをつくる。符号化部4ではその予測データを参照データとして、画像メモリ1からの該当ビットプレーンデータを符号化する。第2図においては、第1図と同様に、画像メモリ11に原画データを格納し、すでに符号化したビットプレーンのデータは予測の参照データとして、予測参照メモリ12に格納される。そのデータを参照して、予測部13では予測データをつくる。比較部14では予測データと該当ビットプレーンデータとの差データをつくり、符号化部15ではそのデータを符号化する。本発明の第1、第2の一実施例のブロック図では、画像メモリと予測参照メモリを

合は、それまで符号化したビットプレーンのデータ(B1)とすでに符号化したデータ(図中の①)を参照データとして符号化するデータに対応する予測データ(図中の③)をつくり、その予測データ(図中の④)と対応する原画データ(図中の②)を用いて符号化する(B2(③)、PB2(④)-C2(図中の⑤))。これらの操作を繰り返し、B2を符号化していくのである。

同様に以下のビットプレーンに対してもこのような操作を行っていくのである。符号化の処理單位は1ラインにすることも2次元領域にすることも可能である。

次に本発明の一実施例における予測部について説明する。第4図の(a)において、Aは符号化しようとするラインデータであり、Bはすでに符号化した前ラインのデータである。符号化しようとする原画データを2ビットで量子化したデータの1ビット目①と2ビット目②を得る。(a)では原画データの1ビット目のデータを参照データとして、1ビット目の白または黒のランが続く区間内(図

別々にしたが、予測部で参照すべきデータのみ画像メモリから読むようにすれば、それらを画像メモリ1つにしても差支えない。

次に本符号化方法をさらに詳しく説明する。第3図での2ビットの画像データを符号化する場合は、まず最上位のビットプレーンB1を2箇画像データの符号化方法を用いて符号化する(B1-C1)。次に2ビット目のビットプレーンを符号化する場合は、その一部ずつ符号化していくのである。図中の①に対応するデータを符号化する場合は、それまで符号化したビットプレーンのデータ(B1)を参照して符号化するデータに対応する予測データ(図中の③)をつくり、その予測データ(図中の④)と対応する原画データ(図中の②)を用いて符号化する(B2(③)、PB2(④)-C2(図中の⑤))。その符号化する場合には、予測データとの差をとり、その差データを符号化する場合と予測データを参照データとして、符号化を行なう場合などが考えられる。

次に図中の②に対応するデータを符号化する場

中では、 $a-b$ 間、 $b-c$ 間、 $c-d$ 間、 $d-e$ 間)で線形に予測する。あるラン区間での階調レベルは大きいので、ここではそのラン区間の両端のラン区間との階調レベルの違いにより、予測方法を変化させている。図中のラン区間にいて、 $a-b$ 間であれば、図中の右側のラン区間のレベルが高く、左側はないのでここでは低いものと仮定し。 $a-b$ 間では、左下から右上への直線で示すレベルを予測データCとする。同様に $b-c$ 間では、左側も右側も低いので、そのラン区間では中間点でレベルがピークになるものとして、中間点でそのラン区間でとれる最大レベルになるよう直線で示すレベルを予測データCとし、 $c-d$ 間では、左側も右側も高いので、そのラン区間では中間点でレベルがピークになるものとして、中間点でそのラン区間でとれる最小レベルになるよう直線で示すレベルを予測データCとし、 $d-e$ 間では左側のラン区間のレベルが低く、右側はないのでここでは高いものと仮定し、左下から右上への直線で示すレベルを予測データCとする。すなわち

特開昭63-296564 (5)

ここでは画像データの1次元方向に着目して予測しているのである。さらに、上位ビットプレーンから予測したデータCを前ラインのデータBを用いて修正を加えていく、図中のラン区間ににおいて、 $a-b$ 間では前ラインのデータ2ビット目のデータとほとんど差異がないのでCを予測データとし、 $b-c$ 間では前ラインデータのピーク値(図中P1)と予測データのピーク値が異なるため、中間点のピーク値を前ラインデータのピーク値に書きかえて、あらたに予測データをDとする。 $c-d$ 間でも同様にして、新たな予測データDとする。 $d-e$ 間では前ラインデータの2ビット目の変化点V1と予測データCの2ビット目の変化点V2が異なるため変化点をV1に書き換えて予測データDとする。 $e-f$ のDが最終的な予測データであり、そのデータを2ビットで量子化したデータの2ビット目を下方に示す。

次に本発明の一実施例における符号化方法について説明する。第5図において、(1)は第4図での原画データを量子化した場合の2ビット

は第5図と同様に原画データと予測データであり、(2)は原画データ(1)及び予測データ(2)の変化点(図中で点線で示す)の間の差を示している。(4)ではその差に基づき符号化を行っている。符号の記号について説明する。R(4)は予測データの変化点から右エビットの位置に原画データの変化点がある事を示し、L(4)は予測データの変化点から左エビットの位置に原画データの変化点がある事を示し、P(4)は予測データの変化点に対応する原画データの変化点がない事を示し、またH(4)は対応する予測データの変化点がない場合、符号化された原画データの変化点から水平方向にランレンジス符号を施すことを意味し \times はそのラン長を示す。図中ににおいて、符号は予測データ(2)の変化点からの原画データ(1)の変化点の移動量だけを符号化しているのである。この例では予測データの変化点すべてについて符号化したが、上位ビットの変化点(図中の a, b, c, d, e 点)については予測データと原画データはほとんど変化がないので、変化があった場合のみ符号を割り当てるようすれば

目であり、(4)は第4図(2)での予測データを量子化した場合の2ビット目である。符号化するためにまず、予測データと原画データとの排他的NORを取り、誤差分のデータを作り出す。その結果を図に示す。図より、その差データは全く予測のはずれた部分、例えば①及び②のように原画データの変化が予測より非常に急激であった場合を除いた部分では予測がはずれた事を示す黒ラン長が短く、当たった事を示す白ランが長くなっている事がわかる。予測の精度をあげ、予測が的中すれば、あるいは誤差が小さければ白ランは長くなる。この差データをランレンジス符号化するのである。ランレンジス符号化ではラン長の長いものの発生頻度が高ければ符号化効率がよくなるので、本実施例では予測精度をあげることでさらに良い符号化効率を得る事も可能である。またランレンジス符号ではなく算術符号等の他の2進演算の符号を使用してもよい。

また第6図において、予測データを参照請求と(2)して、符号化する方法を説明する。図中で(1)及び

予測のはずれのみ符号化する事になり、さらに効率のよい符号化が可能になる。いままでは予測の手法として、1次元方向で行ってきたが、本発明では予測のデータとして、符号化しようとするビットプレーンより上位のビットプレーンのデータはすべて使用可能であり、またこのビットプレーンのデータの符号化処理単位をビットプレーン全体をナップサンプリングしたデータとする事で2次元方向での予測処理も可能である。第7図にその例を示す。第7図(4)は原画データであり、その上位1ビット(△はそのビットで形成される白と黒の境界線)から、予測したデータを(2)とすると、それらの2ビット目(図中のBはそれぞれの2ビット目で形成される白と黒の境界線)同士の排他的NORをとると(4)のようになる。2次元にするとき \triangle を \triangle と \triangle と1次元のよう水平の相間だけではなく、垂直の相間も利用する事になり、さらに予測の的中率の向上が期待できる。それにより、予測データと原画データの誤差データが少なくなり、符号化の効率よくする事ができる。

発明の効果

本発明により、以下の効果がある。

多値画像データに対して、ピットプレーン符号化方法の長所である記録時の任意な階調ピットの設定、及び再生時の階層的再生を損なうことなく、可逆性のある高効率の圧縮符号化を実現できる。

4. 図面の簡単な説明

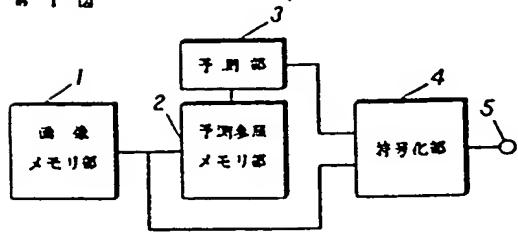
第1図、第2図は本発明の一実施例におけるピットプレーン予測符号化方法を具現化する装置のブロック図、第3図は符号化方法の概要を示すデータ配列図、第4図はピットプレーンデータの1次元での予測の一例を示す状態図、第5図、第6図は符号化の一例を示す状態図、第7図は2次元での予測及び符号化の一例を示す状態図、第8図に従来の符号化方法の概要を示すデータ配列図である。

1 ……画像メモリ、2 ……予測参照メモリ、3 ……予測部、4 ……符号化部、5 ……出力端子、
1 1 ……画像メモリ、1 2 ……予測参照メモリ、
1 3 ……予測部、1 4 ……比較部、1 5 ……符号

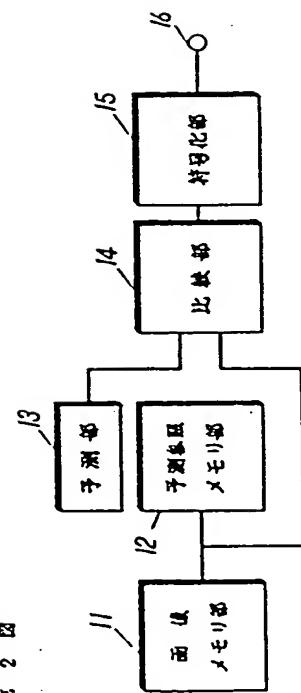
化部。

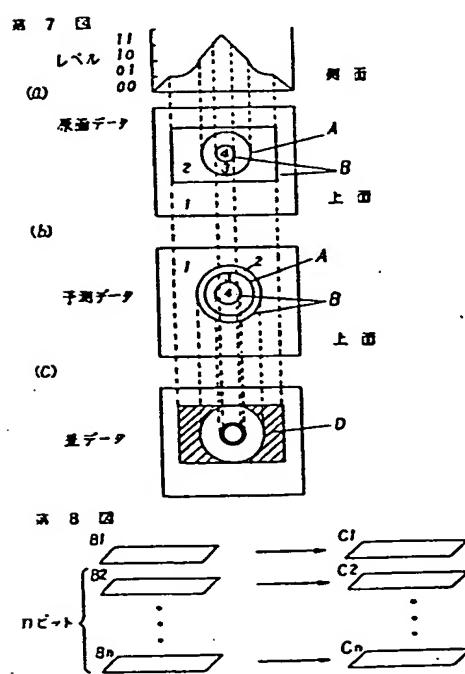
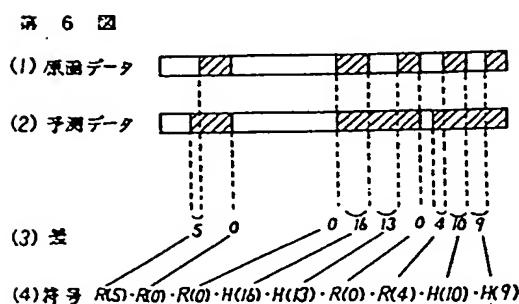
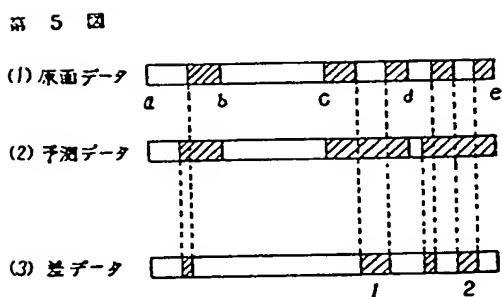
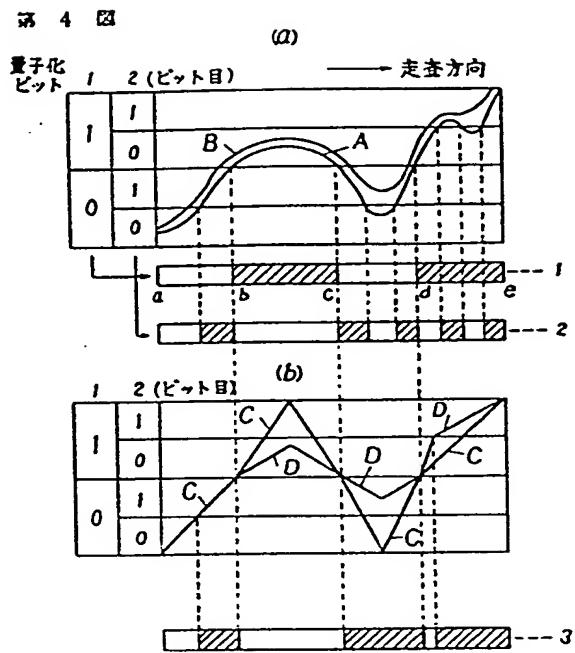
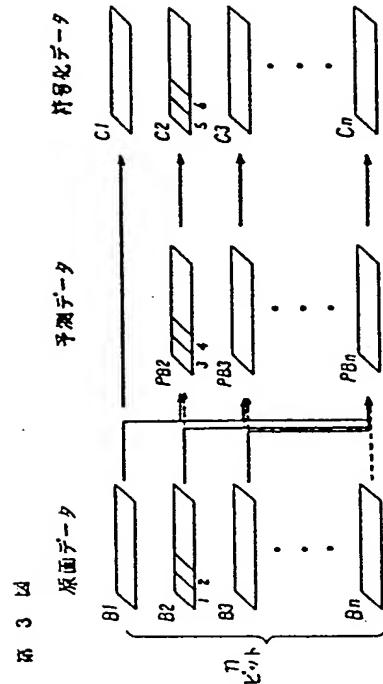
代理人の氏名 井理士 中尾 敏男 ほか1名

第1図



第2図





**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.